

令和5年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立千代崎中学校		NO.	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>学力の向上に向けた授業の改善の取り組みを継承しつつ、よりよい授業づくりのための教員のスキルの向上のための研修を進める。</p> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> みえスタディチェックで県平均を上回っている教科 1年国語 +2.3 1年数学 +3.4 2年国語 +1.9 学調の結果、数学(+2.0)は全国平均を上回っていた。 <p><生徒アンケート>(肯定的回答の割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「学校の先生は私たちに分かりやすく授業を工夫している」 R4:94.8%→ 93.5% ②「自分から進んで勉強に取り組んでいる」 R4:61.3%→ 65.8%(目標70%) <p><教師アンケート>(肯定的回答の割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「この学校では、授業の工夫・改善を組織的にやっている」 R4:93.8%→ 86.2% ②「授業の中で、生徒が学習課題に意欲的に取り組めるよう指導の工夫を行っている」 R4:100%→ 93.8% <p>・教科部会は教科公開を行ったり、公開授業前には実施できたものの、定期的実施するには、時間を確保することが難しかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年によって、できる教科に差異がでるのは小学校時からの指導が特性によって起こるのかわかりませんが、学力向上にむけて様々な工夫や研修が行われているのがよくわかる。今後も教材研究、指導方法の工夫・改善を進めたい。わかる授業に努めてもらいたい。 ・生徒アンケート項目「分かりやすく授業を工夫している」の割合が高評価ですばらしいが徹減しており、今後改善を図られたい。 ・生徒アンケート項目「自分から進んで勉強に取り組んでいる」の割合が上昇しており、今後も期待したい。 ・教員の頑張りもしっかり生徒に届いているが、今後、生徒のやる気を引き出すかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学力向上に向けた研修会を定期的に行い、教員の教科専門性、生徒指導力、研究する力を高めていきたい。 ・教職員が様々な形でコミュニケーションをとり、連携をはかれるように、校内研修のグループを工夫し、異学年の交流できる場を設定する。
ICTの活用	<p>公開授業におけるテーマを「ICTの活用」と「思考を促す手立てと効果」とし、授業を通して、生徒が分かりやすいと思える授業づくりを目指し、学力の定着を図る。</p> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの有効活用については、授業の中で取り入れられる機会も増えた。また、昨年度よりもChromebookに触れる機会が増え、スキルが高まった。 ・校内の研修班を設置したことで校内での各教員が能動的にスキルアップを意識できた。 ・定期的な公開授業を通して、各授業から教師それぞれが自身の授業を振り返れた。 ・ICTの有効活用について、教員側のスキルアップは今後も必要になる。 ・「わたしは授業の中で生徒が本時で何を学習したか、何をできるようになったか確認できるような振り返りを設定している」 R4:96.9% → 82.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用によって、生徒がより興味を持ち、わかりやすい授業づくりが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を自学自習を促進できるようにプリント形式だけでなくChromebookを用いた課題など、配付や配信の仕方や課題の設定を工夫していく。 ・授業等でもより効果的に活用できるよう教員の研修を行っていく。
長欠減少	<p>不登校になった児童生徒に対するケアだけでなく、新たな不登校を生まないためにも、欠席生徒への早期対応につとめ、保護者が「学校とつながっている」と感じてもらえる取組を積極的に行う。集団での生活が難しい生徒への別室対応を行い、生徒の引きこもりを予防する。</p> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10日以上長期欠席生徒は11月末で63名であり、うち30日以上欠席している生徒は29名であった(内訳は、病気7名、不登校20名、その他2名)。 ・29名のうち、9名の生徒が他の専門機関につながっている。また、専門機関にはつながっていないが、放課後登校や通級指導教室を利用しながら学校の教員との信頼関係を構築している生徒が複数いる。 ・この中には、家庭環境の不安定さから登校しづらい生徒が目立った。今後さらに、地域や福祉の専門機関との連携を図りながら生徒の生活背景にも留意していく必要がある。 ・教室に入りづらい生徒への対応として、教育相談室を活用した別室対応の体制が確立しつつある。今年度、9名が教育相談室を利用しながら引きこもりの回避または教室への復帰に着手している。ICTを活用して、別室からリモートで授業や行事に参加できるよう配慮した。 <p><生徒アンケート(肯定的回答の割合)></p> <p>(学調の質問紙)「学校に行くのは楽しい」88.2%(全国平均+6.4)</p> <p>「クラスは安心して学ぶことができる」R4:92.3%→ 91.2%</p> <p><教師アンケート></p> <p>「この学校は、特に配慮を要する生徒に対応するために、工夫、改善を組織的にやっている」 R4:90.6%→ 89.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのは楽しい」が高いことはすばらしい。今後も取組を継続していただきたい。 ・特別支援や不登校が増加する傾向がある中で支援計画に基づく粘り強い指導に期待したい。また、行政や外部機関とも連携をとり支援を継続していただきたい。 ・不登校生徒が0になるよう対応を継続・改善を図られたい。 ・リモートでの授業や行事の参加はクラスの雰囲気もわかり、教室への復帰に向けての手助けになると思うので今後も継続していただきたい。 ・一人ひとりの生徒の「違い」に対応した工夫が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が楽しく登校できるよう、今後も継続して安心安全な学校作りにつとめていきたい。 ・不登校はDVやネグレクトなどの環境的要因や発達障害等の気質的要因など様々な課題が複雑に絡み合う中で発見することが多い。時には教育現場の力では解決が困難なケースもあるので、医療や福祉の各領域と連携しながらよりよい支援の在り方を模索していきたい。そのためには、すずかっ子支援ファイルや児童生徒理解支援シートを活用した計画的かつ組織的に支援を進め、必要に応じてケース会議を持ち専門家の意見や助言を得る。また、別室での学習環境やリモートでの授業参加など生徒のニーズや困りに寄り添いながら、学び心の居場所を保障するための工夫・改善を引き続き行っていきたい。
地域連携	<p>学校が抱える課題を解決できるよう、学校運営協議会等の意見を踏まえた学校運営に心がけるとともに、教育活動に地域コーディネーター等、様々な地域人材を活用するなど、地域と共にある学校づくりを行う。</p> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会開催回数 全6回(前年度同数) ・「地域行事に参加している」肯定的回答 目標:全国平均以上 結果:45.8%(全国比+7.8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学で安全・安心な学校生活を送れるように取り組んでいる様子がよくわかる。落ち着いた学校が継続していけるよう取り組んでいただきたい。 ・職場体験学習は、地域の方々の協力により、本年度も実施することができた。今後も一人でも多くの生徒が働くことに興味を持てるよう継続していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の協力を得ながら職場体験を継続していきたい。 ・部活動指導員や専門的知識を有した地域住民を講師とした取組を継続しながら地域人材を活用したい。
人権教育	<p>仲間との頑張りなどを認め合うだけでなく、自分の頑張りや自分の良さを認めていく姿勢を育む。いじめや差別、間違った行動を絶対に許さないという姿勢を育てる。困ったときに周りに相談できる環境をつくる。</p> <p>お互いを認め合う取り組みが必要、クラス・学年・学校が安心できる場所になるように、思いやりのある言動を大切にできる心を育む。</p> <p>(成果と課題)</p> <p><生徒アンケート>(肯定的回答の割合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思う」 目標80%→ 73.6% ・「困ったことがあれば学校の先生に相談できる」 目標80%→ 81.8% ・「授業では自分の考えや疑問を発言しやすい雰囲気がつくられている」 目標82%→ 73.6% ・「クラスのなかまは、わたしのよいところやがんばりを認めてくれる」 目標88%→ 86.6% <p>・各学年の校内公開授業を実施。事後検討会で授業についての意見交流を行った。</p> <p>・3年生は、性適合手術を受けた講師を招き、出会い学習を通して性の多様性についての学習を行った。</p> <p>・クラスの中の視点生徒についてレポートを作成し、その生徒を中心とした学級づくりや、その生徒について、学年会を通して、学年で共通理解をした。</p> <p>・11月に校区人権フォーラムを開催。それに関わって、校内人権ネットワークに1年生8人や2年生7人が参加し、人権について考える機会となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・性的マイノリティーに関する授業に取り組んだのは良かった。今後もお互いを認め合う教育を推進していただきたい。 ・生徒アンケート項目「困ったことがあれば学校の先生に相談できる」が上昇しており良かった。今後も信頼関係を構築し続けていただきたい。 ・生徒アンケート項目「自分にはよいところがあると思う」が目標値には届かなかったが、前回より上がっているので取組を継続していただきたい。 ・アンケートより先生や仲間への信頼度が高いことが伺え、今後も維持していただきたい。 ・お互いを認め合う意識が高く、積極的な道徳教育活動が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒の実情に応じた課題を設定し、専門的知見を有する外部講師を招聘する。 ・今後も小中連携を図りながら、校区の人権課題を踏まえた人権教育を推進していく。